道路の變遷

凹道を以て一車厘に通ずべく、出水時の困難實に察するに足る。聞く往昔庫車より河色爾へは、千佛洞を經る捷路ありしも、河道の變遷を以て渭干河畔遂に水澤地と爲りしに因り、康熙年間、楊玉春なる人の設計を以て、此の迂回路を開きたりと。

河色爾は其の附近を合せて人家百餘戸あり。

漢代の西域都護府

河色爾河の谷地に漢代西域の都護府たる烏壘城ありしものゝ如し。杜氏通典に云ふ『漢宜帝時（紀元前六十年代）匈奴益弱、不レ得レ近二西域一、於レ是徒二屯田於北胥鞬披莎車之地一、屯田校尉始屬二都護一、都護督二察烏孫康居諸外國一、都護理二烏壘城一、去二陽關一二千七百四十里、與二渠黎田官一相近、土地肥饒、於二西域一爲レ中、故理焉』と然れども果して何の地たるやを明記するものなし。偶〻予の阿克蘇を過るや、該地の道臺潘震氏より烏壘關城の碑文搨本數葉と說明書一通を贈らる。是に於て記錄に照らし地圖を按し、始めて烏壘城の所在は河色爾河の谷地たることを確め得たり。潘道臺贈る所の文書左の如し（文中の里數は清里とす）

烏壘碑文の考證

劉平國碑字

龜茲左將軍劉平國以二七月丙戌一□發、家徒、秦人孟伯山、狄虎賁、趙當、□卑强阿□等